

教育研究業績書

令和 2 年 5 月 1 日			
氏名 鴨志田(土橋) 加奈 印			
担当授業科目			
領域及び保育内容の指導 法に関する科目	大学が独自に 設定する科目	教育の基礎的理解に 関する科目等	特別支援教育に 関する科目
・ 保育内容表現(単独) ・ 言葉と表現の指導法 （クラス分け）	・ 子ども文化演習 C・ 劇 ・ ダンスムーブメント		
教育上の能力に関する事項			
事項	年 月	概要	
1 教育方法の実践例	平成 23 年 9 月 ~25 年 3 月	東京家政大学短期大学部保育科後期開講「保育総合表現」 120 名に対して、ダンス指導についての実践的な学びを促 進する体験型授業への取り組みを実施した。ダンスの創作と 実演を通して、学生自身が自発的動機を持って生き生きと 踊るという経験をさせると同時にダンス指導におけるポイン ト（共感的学習環境の重要性、相手の身体技能にあった 振付の重要性など）を体験的に学習させる授業を実施した。	
	平成 24 年 4 月 ~25 年 3 月	東京家政大学共通教育科目「からだとスポーツ ・ 」前 期・後期開講において、ジャズダンス等の現代的なリズム のダンスの基本エクササイズを用いた大学体育への取組み を実施した。ダンス・芝居・歌という表現媒体を介しバー バルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション を行き来する柔軟な他者との交流を体験させ、今後の学 生生活や社会生活における他者との相互的関わりを表現と いう手法を用いて実体験させていく取り組みである。「見せる 見られる」という実体験を手がかりに、表現のコミュニケ ーション性に対する気づきを促すような機会を提供する事 を目的とした活動である。	
	平成 21 年 4 月 ~25 年 3 月	東京家政大学共通教育科目「しなやかな心とからだ」オム ニバス形式授業（前期・後期開講）における他者とのコミ ュニケーションに着目した演劇的要素含むダンスパフォー マンス体験型授業の試みを実施した。様々な遊具を使用し た遊びの展開や環境構成について、幼児体操、リズム遊び など近隣保育現場で想定される活動を取り込み、運動発達 についての意義と段階的な指導について体験的に理解する と共に、実践力に繋がるような授業を行った。	
	平成 26 年 4 月 ~ 現在	山村学園短期大学保育学科 1 年後期開講「身体表現」にお ける遊戯会、発表会等で行なわれる事が多いダンス等の「型 のある身体表現」と、子ども達の日常における遊びから生 まれるような即興的で「型のない身体表現」について、両 側面から多角的に身体表現を捉える視点を養うと共に、具 体的な活動を実践できる力を育成する事を目的とした授業 実践を行った。	

様式第4号（教員個人に関する書類）

	平成 26 年 4 月～現在 平成 26 年 4 月～現在 平成 26 年 4 月～現在	山村学園短期大学保育学科 2 学年共通選択科目開講「リトミック・リズム運動」において、身体表現の発展・応用的取り組みとして、ダンスの身体性・コミュニケーション性・審美性・娯楽性・情緒性をヒントに、様々なダンスジャンルについての知識提供と実践を織り交ぜた授業を行った。 山村学園短期大学保育学科 2 年後期選択科目「子ども文化演習 C」において、対外行事に向けて、舞台表現作品を制作しながら、子どもの心性に届く表現とはどのようなものかといった子ども理解の視点に加え、他者との協働的活動を通して自身の能力に気づき、問題解決に向かい意欲的に取り組む事も到達目標に掲げ授業実践を行っている。 山村学園短期大学保育学科 1 年前期開講「幼児体育」後期開講「身体表現」では、班ごとの活動（子どもの遊び環境探し、体操、遊びうた指導ロールプレイ等）を、デジタルコンテンツを使い動画や写真に記録し、活動後すぐにそれらの情報をプロジェクターを通して全体で共有し、実感が伴った省察を行うことができる環境を整えている。また、インターネットを使って情報収集をおこなったり、同時にそれらの扱い方などを指導することで、ICT を活用した教材研究や保育実践、またそれに関わるモラルを学ぶ機会を提供している。
2 作成した教科書・教材		特記事項なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価		幼児体育・身体表現・子ども文化演習劇など、担当する授業の学生の授業評価は 5 段階評価の 4 以上を過去 3 年間キープしていることを評価されている。また、子ども文化演習劇で行う学校行事の表現発表では、学生達の動機づけやプロセスを大切にしたファシリテーションについて評価されている。
4 実務の経験を有する者についての特記事項	平成 25 年 9 月 平成 27 年 7 月 平成 27 年 8 月 平成 28 年 7 月 平成 28 年 8 月	日本女子体育大学地域交流推進室公開講座キッズダンス講座講師を務める。 山村国際高等学校 3 年生対象出前授業「ダンスにトライ！」の講師を担当する。 十文字学園女子大学健康栄養学科自主社会活動「ダンスパフォーマンス」指導講師を務める。 山村国際高等学校 3 年生対象出前授業「保育・幼児教育とは」の講師を担当する。 有明教育芸術短期大学山本ゼミナール・東京家政大学花輪ゼミナール合同演劇表現学習会『おはなしいっぱい！げきまつり』の舞踊劇講師を務める。
5 その他 1. 主な指導歴	平成 20 年 9 月～平成 25 年 3 月 平成 25 年 9	東京都三鷹市立北野小学校地域子どもクラブ ダンスチーム指導をする。地域の他のダンスチームと交流して行う合同発表会を年二回企画し発表の機会を提供し、企画運営は地域子どもクラブの地域の方々と協働して取り組んだ。 日本女子体育大学地域交流推進室公開講座キッズダンス講

様式第4号（教員個人に関する書類）

2. 主な舞台出演作品	月～12月	座指導をする。大学機関と地域の交流を目的とし、開講された講座である。地域公立小学校や近隣私立小学校に通う児童小学1～3年生11名の参加がした。
	平成26年8月～平成27年8月	全埼玉私立幼稚園連合会北部ブロック新規採用教員研修会講師を務めた。100名の参加者を対象に教員自身が心弾ませながら踊る事による高揚と楽しさを実感する事を目的に、様々なジャンルのダンスワークを提供した。
	平成27年1月～平成28年8月	日本リズムムーブメント指導者協会講習会講師を務め、生涯スポーツに焦点をあてたダンス協会にて20～60代と幅広い受講者に向け、シアターダンスワークショップを行った。当日は100人の参加があり盛況であった。
	平成27年6月	鴻巣市私立幼稚園協会幼稚園教員研修会講師を務め、身体表現の理解とその指導法といった内容について、約100名に対しワークショップを行った。ダンスを構成する要素であるコミュニケーション性・情緒性・審美性・身体性・娯楽性の5つについて理解を深めながら実技を行った。
	平成27年8～9月	十文字学園女子大学健康栄養学科自主社会活動「ダンスパフォーマンス」指導を務め、地域貢献活動のため新座市のイベントで、30名ほどの学生集団がダンスを披露した。学生の取り組んでいるダンス作品について、特別講師として指導・助言を行なった。
	平成28年8月	有明教育芸術短期大学山本ゼミナール・東京家政大学花輪ゼミナール 合同演劇表現学習会『おはなしいっぱい！げきまつり』講師（舞踊劇）を務めた。他学の学生と協働しながら二日間の作品創作にあたり、三日目には児童館でのパフォーマンスを行った。
	平成29年6月	府中の森芸術劇場ふるさとホールにて、ワンダーボックス舞踊展ゲスト出演し、舞踊ソロ作品を発表した。
	平成29年8月	東京家政大学生生活科学研究所温故知新プロジェクト「坪内逍遙が児童教育にもたらした偉業 家庭用児童劇の導入的意義」研究成果発表会をせんがわ劇場で行い、指導講師を務めた。
	平成19年1月～20年7月	東京家政大学、有明教育芸術短期大学、山村学園短期大学保育科の学生と卒業生と共に、大正期に執筆された坪内の台本の劇化、及びその発表を行った。
	平成20年10月、11月 平成22年6月、7月	「歌舞奏スペシャル」五木ひろし特別公演出演、洋舞ダンサーとして、ショウ場面に出演した。
	平成20年10月、11月	「春の夜の夢」東儀秀樹新春コンサート出演・東儀秀樹スペインサラゴサ万博出演した。日本最古の舞踊劇である伎楽及び天女舞を担当し舞台出演をした。東京公演、全国ツアーに参加した。また同作品でスペインサラゴサ万博にて伎楽及び天女舞を担当し披露した。
	平成22年1月	「CHICAGO the musical」出演 TBS・キョードー東京・梅田芸術劇場・朝日新聞社主催、ブロードウェイミュージ

様式第4号（教員個人に関する書類）

	平成 22 年 3 月 平成 22 年 3 月 平成 27 年 4 月 平成 27 年 9 月 11 日 平成 29 年 6 月 平成 30 年 7 月	カル「CHICAGO」の日本版キャストとして出演。ブロードウェイより制作チームが来日し、舞台を作り上げた。400人を超える応募者の大規模なオーディションから7名に選出され、リズ、ハニャック、ジューン、モナ、アニー役を演じた。 「Funny Girl」出演 TBS・梅田芸術劇場主催、ブロードウェイミュージカルに主演、ポリー役を演じた。演出は宝塚歌劇団演出家の正塚晴彦であった。 「市村正親・鹿賀丈史それぞれのコンサート」出演 ホリプロ主催のコンサートにダンサーとして出演した。市村氏に関して、彼の出演作のナンバーを中心としたミュージカルショーに出演した。 ダンス作品「家族」制作・出演 神楽坂セッションハウスにて、鴨志田加奈・藤山すみれデュオ作品を制作、発表した。 THE HARMONY OF MUSIC AND STEPS VOL.4 「HALF&HALF」出演、北沢タウンホールにて音楽家大下和人・舞踊家藤山すみれ主催の THE HARMONY OF MUSIC AND STEPS 第四回目公演にダンサーとして出演した。 府中の森芸術劇場ふるさとホールにて、ワンダーボックス舞踊展ゲスト出演をし、舞踊ソロ作品の制作と発表を行った。 強く、水70%」出演 woodytheatre 中目黒。舞踊家藤山すみれ主催のダンス公演にダンサーとして出演。
職務上の実績に関する事項		
事項	年 月	概要
1 資格，免許		特記事項なし
2 学校現場等での実務経験		特記事項なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項	平成 21 年 9 月 平成 21 年 9 月 平成 24 年 8 月 平成 25 年 8 月～現在 平成 26 年 5 月 平成 26 年 8 月	逗子市芸術文化事業協会・逗子教育委員会主催市民ミュージカル作品「湘南ラジオ」振付 文化庁地域文化振興施策「本物の舞台芸術体験事業」厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財「劇団かかし座アラジンと魔法のランプ」振付及びステージング 財団法人児童健全育成推進財団 児童劇巡回事業 遊育研究所素劇舎「素劇ブレーメンの音楽隊」「素劇金のがちょうワークショップ」振付及び出演 文化庁文化芸術振興費助成「トップレベルの舞台芸術創造事業」「劇団かかし座オズの魔法使い」振付及びステージング 日本保育学会第67回大会「保育者養成課程におけるダンス創作と実演の取り組みに関する一考察」(口頭発表) 埼玉県私立幼稚園連合会北ブロック新規採用教員研修講師

様式第4号（教員個人に関する書類）

	平成 27 年 1 月	日本リズム・ダンス指導者協会講習会講師（シアターダンス）
	平成 27 年 4 月	東京家政大学生生活科学研究所客員研究委員委託（3 年研究）
	平成 27 年 5 月	日本保育学会第 68 回大会「身体表現活動の総合的理解を目指した保育者養成校での取り組み」（ポスター発表）
	平成 27 年 6 月	鴻巣市私立幼稚園協会幼稚園教員研修会講師
	平成 27 年 7 月	鳩山町子育て支援施設つどいの広場ぽっぽ「子育て教養講座（身体あそび）」講師
	平成 27 年 7 月	子ども大学はとやま「体を使ってあそぼう」講師
	平成 27 年 8 月	埼玉県私立幼稚園連合会北ブロック新規採用教員研修講師（表現）
	平成 28 年 5 月	日本保育学会第 69 回大会「学習者の創造性を涵養する授業プログラムの検討―「授業実践の意義、内容、課題に着目して―」（自主シンポジウム連名登壇者）
	平成 28 年 8 月	日本女子体育連盟サマーセミナー（国立オリンピック記念青少年総合センター）ダンス講師（シアターダンス）
	平成 29 年 4 月	坂戸市児童福祉審議会委員
	平成 30 年 8 月	比企地区公立幼稚園研修会 講師（表現）
	平成 30 年 11 月	社会福祉法人いちご会松枝保育園親子のつどい講師（身体表現）
	平成 31 年 1 月	けやの森学園幼稚園舎・保育園表現指導
4 その他		特記事項なし

担当授業科目に関する研究業績等					
担当授業科目	著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等の 名称	概 要
保育内容表現	（教育実践記録等） 1. 学習者の創造性を涵養する授業プログラムの検討 授業実践の意義、内容、課題に着目して―（自主シンポジウム登壇）	共	平成 28 年 5 月	日本保育学会第 69 回大会発表要旨集	<u>子どもの心性に基づき意図を持って劇の創作実演に当たる授業の実践的研究を題材として自主シンポジウム登壇者の 1 人として、「学生と教員の協同について―表現発表会の経緯から考える―」というテーマで教育実践の報告を行った。</u> (p.169)
	2. 坪内逍遙が児童教育にもたらした偉業 - 家庭用児童劇の導入的意義	共	平成 28 年 7 月	東京家政大学生生活科学研究所報告	東京家政大学生生活科学研究所総合研究温故知新プロジェクトにおける研究テーマ「坪内逍遙が児童教育にもたらした偉業 - 家庭用児童劇の導入的意義」の客員研究員として

様式第4号（教員個人に関する書類）

	3,坪内逍遙が児童教育にもたらした偉業 - 家庭用児童劇の導入的意義 坪内逍遙著「家庭用児童劇」台帳の劇化の試み～「鼠の会議」「櫨と芒」「こだま」を題材として	共	平成29年7月	東京家政大学生生活科学研究所報告第40集	平成27年度研究成果を報告した。執筆担当部分は <u>遊戯の芸術化</u> についてである。(pp.4～6) 著者：花輪充、山本直樹、鴨志田加奈、高谷温子 東京家政大学生生活科学研究所総合研究温故知新プロジェクトにおける研究テーマ「坪内逍遙が児童教育にもたらした偉業 - 家庭用児童劇の導入的意義」の客員研究員として平成28年度研究成果を報告した。執筆担当部分は <u>舞踊劇について・舞踊劇創作の経過・舞踊劇創作の成果について</u> である。(pp.11～13 舞踊劇の創作について) 著者：花輪充、山本直樹、鴨志田加奈、高谷温子
	4,坪内逍遙が児童教育にもたらした偉業 - 坪内逍遙が目指した表現世界の具象化—家庭よう児童劇の台帳より「親雀と子雀」「蠅と蜘蛛」「こだま」「櫨と芒」「鼠の会議」「美しい歌」の劇化と実演	共	平成30年7月	東京家政大学生生活科学研究所報告第41集	東京家政大学生生活科学研究所総合研究温故知新プロジェクトにおける研究テーマ「坪内逍遙が児童教育にもたらした偉業 - 家庭用児童劇の導入的意義」の客員研究員として平成29年度研究成果を報告した。執筆担当部分は、 <u>舞踊劇「櫨と芒」</u> についてである。(pp.19 舞踊劇の発表について) 著者：花輪充、山本直樹、鴨志田加奈、高谷温子
	5.地域子育て支援イベントでの保育実践による学生の学習効果に関する一考察 ～はとやま子育てフィスティバル「山村にんにん忍者塾」ふりかえりレポートから	共	平成30年3月	山村学園短期大学紀要第29号	総合的に保育内容を学ぶカリキュラムの中で行われた体験的学習を通して、実際に学生が何を学んだと感じているのかについて共起ネットワークを作成し考察を行った。
	(その他) 児童文化財制作作品 1 逗子市芸術文化事業協会・逗子教育委員会主催市民ミュージカル作品「湘南ラジ	共	平成21年9月	神奈川県逗子市文化プラザ	作品本編振付及びステージングを担当した。逗子の <u>地域文化の今昔を題材としたミュージカル</u> であり、公募で募集された地域住民と共に約6ヶ月かけて作品を作り上げた。小学生から60代まで幅広い年齢の参加があった。共同制作者：野宮安寿、

様式第4号（教員個人に関する書類）

	オ」振付 2 .文化庁地域文化振興施策「本物の舞台芸術体験事業」厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財「劇団かかし座アゾンと魔法のラッパ」振付及びステージング	共	平成 21 年 9 月	神奈川県川崎市立稲田小学校 他	花輪充、石川浩光、 <u>鴨志田加奈</u> 作品本編振付及びステージング、ワークショップにおける小学生用ダンスの振付を担当した。本作品は全国の小学校、特別支援学校、ホール等で「本物の舞台芸術体験事業」として平成 25 年 9 月まで上演された。 共同制作者：後藤圭、花輪充、石川浩光、 <u>鴨志田加奈</u>
	3 .財)児童健全育成推進財団児童劇巡回事業遊育研究所素劇舎「素劇 プレーメンの音楽隊」「素劇 金のがちょうワークショップ」振付及び出演	共	平成 24 年 8 月	姫路市立飾磨児童センター、相模原市立大沼こどもセンター 他 11カ所巡回	厚生労働省外郭団体である児童健全育成推進財団が実施する児童劇巡回事業において劇団遊育研究所素劇舎の作品に振付兼出演という形で参加した。対象年齢は幼児、児童である。 <u>幅広い学齢に良質な芸術体験となるよう、鑑賞・ワークショップも取り入れた芸術体験事業</u> となっている。 共同制作者：関矢幸雄、花輪充、 <u>鴨志田加奈</u>
	4 .文化庁文化芸術振興費助成「トップレベルの舞台芸術創造事業」「劇団かかし座オズの魔法使い」振付及びステージング	共	平成 25 年 8 月 ～現在	神奈川県横浜市鶴見区文化センターサルビアホール 他	作品本編振付及びステージングを担当した。本作品は全国の小学校、特別支援学校、ホール等で「トップレベルの舞台芸術創造事業」として平成 25 年 8 月より上演されている。 共同制作者：後藤圭、花輪充、石川浩光、 <u>鴨志田加奈</u>
言葉と表現の指導法	(教育実践記録等) 1 .保育者養成におけるダンス創作と実演の取り組み 学生の学びの過程に着目したインタビュー調査-	単	平成 28 年 7 月	日本基礎教育学会紀要第 20 号	ダンス創作と実演における学生の学びの過程に着目した授業実践を行い、事後にインタビュー調査を行った。 <u>活動に対する学生の語りを、身体的な経験の変化に関するもの、心的経験の変化に関するものの 2 つに分類し、考察を行なった。</u> (pp.9 -14)
	(教育実践記録等) 1 . ダンス創作活動に関する学生の語りの分析	単	平成 28 年 3 月	山村学園短期大学紀要第 26 号	前著「保育者養成におけるダンス創作と実演の取り組み 学生の学びの過程に着目したインタビュー調査」の考察を深め、ダンス創作活動に関する学生の語りを丁寧に紐解き、 <u>身体的な経験と心的経験の相互作用から学生の活動過程を仮説的ではあるがモデル図として示した。</u> また、 <u>保育者養成としての有用性といった観点も含め、より総合的な授業実践の考察を行なった。</u> (pp.11 -51)

様式第 4 号（教員個人に関する書類）

	2. 学習者の協働性・創造性の涵養を目的とした総合表現授業実践についての一考察	単	令和元年 3 月	山村学園短期大学紀要第 30 号	短期大学 2 年間の集大成に位置付けられる表現活動の学生の振り返りルーブリック及び自由記述をもとに、授業実践の省察を行った。アクティブラーニングにおける演劇的教育手法の可能性が示唆される結果が見えた。従来の枠を超えた授業学習環境の工夫のための実践的研究として今後の授業改善に生かしていきたい。 (pp.27-33)
--	---	---	----------	------------------	--